

岩津ねぎだより

平成 28 年 10 月 20 日
岩津ねぎ産地協議会
生産支援チーム

号外

10 月 17 日に生産支援チーム員では場巡回しましたので、お知らせします。

1ヶ月から40日の生育の遅れ

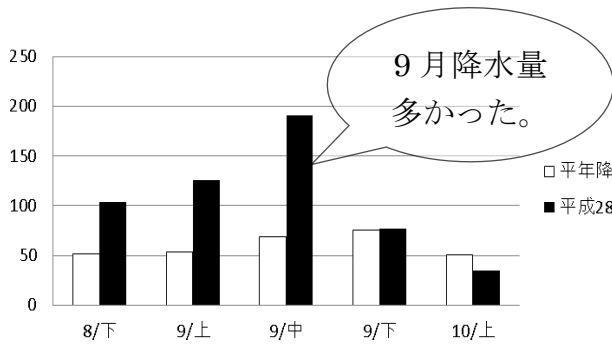


図1: 2016年降水量の推移

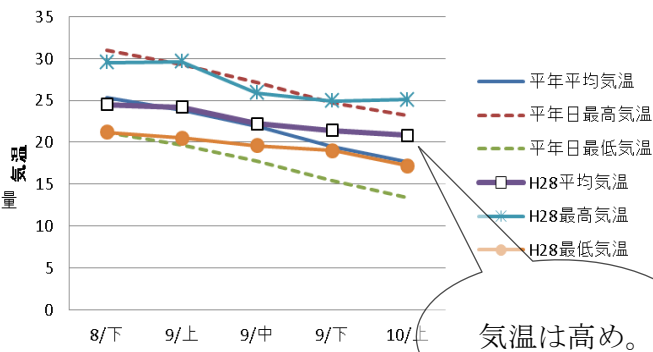


図2: 2016年気温の推移

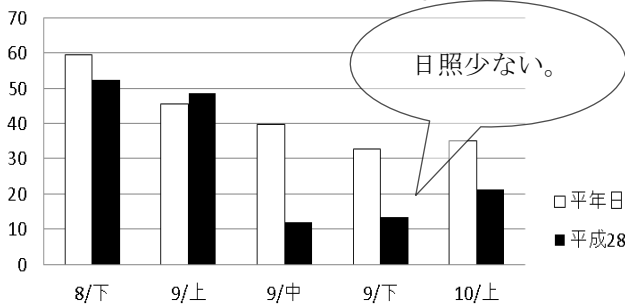


図3: 2016年日照時間の推移

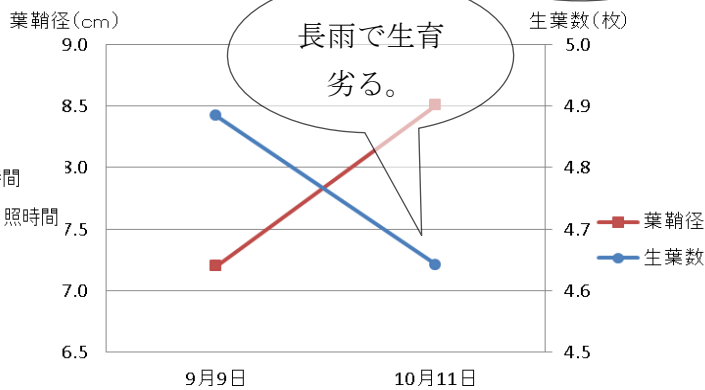


図4: 2016年・生葉数と葉鞘径(18地点の平均)

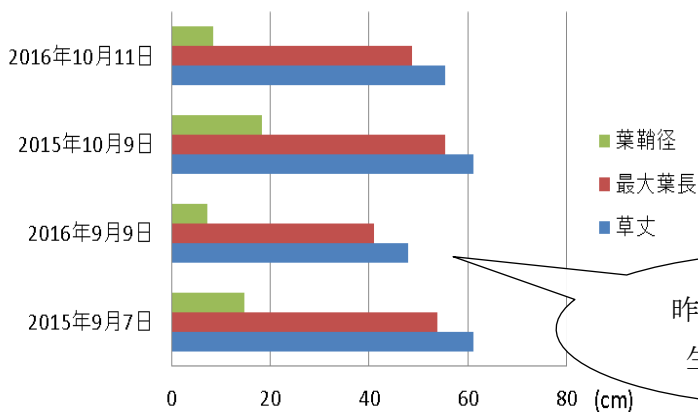


図5: 2015年、2016年生育データの比較



ほ場巡回後の生育状況検討風景

図にあるように、今年は、平年に比べ、9月の降水量が多く、日照時間は少なく、気温が高くなりました。(図1~3)

この影響で、9月は病気の発生が多く、生育が劣りました。生育調査の結果から、今年の生葉数は、9月より10月の方が少なくなっていることが分かります。(図4)

また、草丈や葉鞘径(えり首より下の部分の太さ)は昨年の同じ時期に比べ劣っており、生育は遅れています。(図5)

今後の管理の要点

1 根の酸欠予防

生育の遅れ、病気の発生の原因は根の部分の酸欠です。溝上げして、畝間に水が溜まらないようにしましょう。



当日は、朝方大雨が降りましたが、雨水が畝間に溜まっているほ場が多く見られました。水が溜まったままだと根盤部が酸欠をおこし、根が腐ります。病気やダニの発生も多くなります。雨降り後はほ場に出かけ、クワで畝間を溝上げして溝は排水口につなぎ、しっかり排水しましょう。

2 生育が劣っているねぎは生育が回復してから土寄せしてください。



左の写真のように、**生育が弱っているねぎに深めの土寄せは、かえって酸欠を助長し逆効果**となります。右の写真の生育の劣ったねぎは、酸欠により根盤部が腐り、根があまり発生していません。一方、大きな方のねぎは根の量が多く、根盤部は綺麗な白色です。ねぎの生育を見て追肥・中耕培土しましょう。

3 病気の予防

軟腐病、べと病、黒斑病、さび病 の農薬予防散布の励行



この写真のように、土寄せが過ぎると、地中の軟白部分（葉鞘）が痛み、これにつながる葉が枯れ込みます。この痛んだ部分がヌルッと腐ってくると軟腐病の発生です。オリゼメート粒剤やヨネポン等の農薬で予防しましょう。その他の病気は、現在少なめですが、発生前の予防散布をお願いします。

<問合せ先>

和田山営農生活センター : 672-4800

朝来営農生活センター : 670-4341

山東営農生活センター : 670-7744

朝来農業改良普及センター : 672-6886